４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

７月　絵の具遊び　赤青黄緑白の５色の色水（絵の具を溶いたもの）を混ぜてオリジナルの色を使って絵を描く。子ども自身が色や量を調節しながら目的の色を作る過程を楽しんだり新しい色ができる喜びを感じながら色への関心を深めていく。

１１月　秋の葉っぱ観察　秋の紅葉を楽しみながら、葉っぱの大きさや形色に注目しながら落ち葉を集めを楽しみ園に持ち帰る。自分たちがひろったはっぱを白画用紙に型取り、葉っぱを観察しながら色鉛筆で塗ったり、葉脈を描いて葉っぱの絵を描く。本物の葉っぱを隣に貼って比較した。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

・今までの経験から混色で何色ができるかを知っている子も含めて、様々な色の組合せを実験的に体験して実際に色が変化していく様を興味深く見て、知識を積み重ねた。

・スプーンですくう事で、「ちょっと少ないかな」「今度は多かった」など自分で調整することが出来、色だけでなく「量」についても考えを深めながら遊んでいた。

・互いに見せ合ったり色の良さを認め合う姿、質問や教え合う姿が見られコミュニケーションが深まった。

・秋の散歩での落ち葉集めは、数をたくさん集めることが目的だった子が多いが、「〇〇君のおっきいね」「これは赤色だね」と保育者が声をかけると「色」「形」「大きさ」にも興味を示して集めるようになった。

・絵を描く葉を選ぶのに各自時間をかけていた。形を取りながら「〇〇みたい」と連想したりイメージを楽しんでいた。

・その後の散歩でも周囲をよく見て歩くようになり「この前は赤かったのに茶色くなってる」「しわしわになってる」等時間の経過による色や質の変化に関心を持っていた。







５．振り返り

＜振り返りによって得た保育者の気づき＞

・一斉活動では興味がない事だと雑になりがちだが、子ども自身が興味を持って取り組む活動だと意欲的で根気よく取り組む姿、丁寧に取り組む姿があった。

・おなじ興味関心の中での取組は保育士が何か言わずとも自分で考えたり友達同士相談し合ったり、教え合う姿も見られ自然と友達とのコミュニケーションも深まり、ともに学び合おうという姿があるのを感じた。